令和五年度別府市小・中学生「人権作文」入賞作品

別府市人権問題啓発推進協議会長賞

「私の感じた言葉の壁」

別府市立鶴見小学校五年　小川　楓花

五年生の一学期、となりのクラスに外国籍の女の子がやってきました。なぜわざわざ日本の学校にやって来たか、私にはよく分かりませんでした。たった一か月で、ちがう国の学校に慣れることは簡単ではないと思ったからです。

実際会ってみると、日本人の私たちとちがいを感じませんでしたが、話す言葉は英語で何を話しているか全然分かりませんでした。分かってもらえないのでは、と思うとかべを感じてしまって、話しかけられても困ってしまい友だちにまかせてしまっていました。今考えると、少し話しかけられないように、離れたところにいたと思います。

でもその子は、いろんな人に話しかけて、つながりを広げようとしていました。自分なら、言葉が通じる人とだけ話をしてしまいそうなのに、彼女はなぜこんなに積極的なんだろうと思いました。私は感心しつつ自分にはできないと思ってしまいました。言葉が分からず、文化も知らない、いろんなことがちがう中で、毎日学校に行く…、私にはとう底できないことだと思ってしまいました。

それを一～二か月続ける彼女は、本当にすごいと思います。そして、どんどんいろんな人に声をかけ、仲良くなろうと、苦労しながらも一生懸命努力していたかと思うと、悪いことをしたなと申し訳ない気持ちになりました。そして、日本語でもいいからもう少し話せばよかった、英語で伝えることにも挑戦すればよかったと思うようになりました。

今は夏休み。もうその子と会うことはできなくなりました。住んでいる国に帰っていってしまったからです。もう、この気持ちを彼女に伝えることも話をすることもできないと思うと、後悔の気持ちでいっぱいになります。

でもこの先、外国籍の人や海外にルーツのある人、ちがう言葉を話す人と関わることは、何回もあると思います。その人たちとどう接すると良かったのか、この経験をもとにどう生かしていこうか考えました。言葉が通じなくても、自分が何をできるか考えてできることをすれば、相手にはその気持ちだけでも、伝わるのではないかと考えました。確かに私たちのところに来た女の子も私に何か伝えようとしてくれたことは伝わっていました。だから同じようなことがあった時、次こそは何かを伝えたいと思います。そして日本の国のことも、もっと知ってもらいたいと思うようになりました。

私が住んでいる大分県別府市には、何校か大学があり、様々な国の外国人が多いです。特にお祭りや、イベントがあったり、観光で来ている外国人がたくさんいます。だからこそ、外国人と関わるという体験は、これからたくさんできます。なので私はニュースや新聞を使って、他の国に目を向けようと思いました。そして、文化を知ったり様々な国の言葉をがんばってできるかぎり、覚えていきたいと思いました。そして、伝える努力をしていこうと思いました。この体験を今後に生かしていきたいです。次に外国人関係のことがあったら一学期の一～二か月の間に、あったことをもう二度とくり返さないように意識して、今後過ごしていきたいです。